

各火山の 10 月の活動解説

【北海道地方】

めあかんだけ 雌阿寒岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ96-1火口南側地下の温度の上がった状態が継続している可能性がある。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

とちだだけ 十勝岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量増加及び地震増加や火山性微動の発生、発光現象などが観測されている。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

たるまえさん 樽前山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサスプリ [噴火予報（平常）]

たいせつざん 大雪山 [噴火予報（平常）]

くつたら 倶多楽 [噴火予報（平常）]

うすざん 有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ほっかいどうこまがたけ 北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

えさん 恵山 [噴火予報（平常）]

【東北地方】

はっこうださん 八甲田山 [噴火予報（平常）]

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降増加していた八甲田山周辺の地震は、2014年2月頃から減少し、今期間も少ない状況で経過した。2013年4月から7月にかけて増加した、大岳山頂直下の地震活動も低調に経過した。

噴気活動や地殻変動の状況にも特段の変化は認められないが、大岳山頂直下の地震活動は低調ながら継続していることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

いわてさん 岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は低調に経過した。火山性地震が一時的に増加することもあるが、その他の火山活動に変化はなく、噴火の兆候は認められない。

あきたこまがたけ 秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

めだけ 女岳では、2009年から拡大している噴気や地熱域が引き続き認められる。地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも大きな変化はみられないが、地熱活動が継続しているので今後の火山活動の推移に注意が必要である。

さおうざん 蔵王山 [噴火予報（平常）]

火山性微動が4回発生し、微動発生時には傾斜計でわずかな山側上りの変化もみられた。

8日及び19日には御釜の湖面の一部に白濁が確認されている。GNSS¹⁾による地殻変動と噴気活動に特段の変化はみられない。

2014年8月以降、火山活動の高まりがみられ、過去の活動期には、突発的な噴気孔の生成や、火山ガスの噴出等の現象があったことから、観光や登山で火口に近づく際には十分注意が必要である。

あづまやま 吾妻山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山性地震がやや多い状況で経過した。大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

大穴火口等では火山ガスの噴出がみられるので警戒が必要である。また、大穴火口の風下側でも火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん 岩木山 [噴火予報（平常）]

あきたやけやま 秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ちょうかいさん 鳥海山 [噴火予報（平常）]

くりこまやま 栗駒山 [噴火予報（平常）]

あだたらやま 安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ぼんだいさん 磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】

くさつしらねさん 草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていたが、8月20日以降やや少ない状態で経過している。地殻変動観測²⁾によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。

東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7 月以降停滞している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

あさまやま 浅間山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

火山活動に特段の変化はなく、山頂火口から 500m を超える範囲に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、山頂火口から 500m 以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰の噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

みだかはら 弥陀ヶ原 [噴火予報 (平常)]

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

おんたけさん 御嶽山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)]

火山活動には低下傾向がみられるものの、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。また、噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石³⁾を飛散させ、火砕流を伴うような噴火となる可能性がある。遠望カメラによる観測では、噴煙に含まれる火山灰の量が少なくなり、10 月 10 日以降、白色となった。また、火山ガス観測によると二酸化硫黄の放出が継続している。

火口から 4 km 程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒が必要である。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流の可能性があるため注意が必要である。

ふじさん 富士山 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南

部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

いずおおしま 伊豆大島 [噴火予報 (噴火警戒レベル 1、平常)]

24 日及び 29 日から 30 日にかけて主に島の西部を震源とする火山性地震が一時的に増加した。低周波地震や火山性微動は観測されていない。

GNSS¹⁾ 連続観測では、地下深部のマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いている。2011 年頃から鈍化していたが、2013 年 8 月頃から再び膨張傾向がみられる。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意が必要である。

みやけじま 三宅島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 2 月以降はやや少量となっている。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるためと予想される地域では火山ガスに警戒が必要である。

にしおしま 西之島 [火口周辺警報 (入山危険) 及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されている。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがあるため、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒が必要である。また、周辺海域では浮遊物に注意が必要である。

いおうとう 硫黄島 [火口周辺警報 (火口周辺危険) 及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震の発生はやや少ない状態で経過している。GNSS¹⁾ 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 2 月下旬頃から隆起の傾向がみられていたが、9 月頃から停滞の傾向となっている。その他の観測データに特段の異常は認められない。硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴

火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

福徳岡ノ場〔噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報〕

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福徳岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

なすだけ
那須岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕
にっこうしらねさん
日光白根山〔噴火予報（平常）〕
にいがたやけやま
新潟焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕
やけだけ
焼岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕
のりくらだけ
乗鞍岳〔噴火予報（平常）〕
はくさん
白山〔噴火予報（平常）〕
はこねやま
箱根山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕
いずとうぶかさんぐん
伊豆東部火山群〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕
にいじま
新島〔噴火予報（平常）〕
こうづしま
神津島〔噴火予報（平常）〕
はちじょうじま
八丈島〔噴火予報（平常）〕
あおがしほ
青ヶ島〔噴火予報（平常）〕

【九州地方及び南西諸島】

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

24日の現地調査で、中岳第一火口周辺でわずかな火山灰が認められた。遠望観測ではこの時間帯は天候不良のため噴煙は不明であったが、22日夜遅くから23日未明にかけて周期の短い火山性微動が発生していたことから、この期間にごく小規模な噴火が発生したと考えられる。

現地調査では、引き続き中岳第一火口の中央部付近で高温の噴気孔を確認し、その噴気孔からは火口内にとどまる程度の灰白色の噴煙を確認した。

孤立型微動⁴⁾及び火山性地震は多い状態で、火口内も高温の状態を経過するなど、火山活動は

高まった状態が続いている。

中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意が必要である。

霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

新燃岳火口直下を震源とする地震は概ね少ない状態で経過した。

GNSS¹⁾連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深く（えびの高原付近）にあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられる。

新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石³⁾（火山れき⁵⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥石流や土石流に注意が必要である。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕 ←24日に火口周辺警報（火口周辺危険）に引き上げ

2013年12月以降、韓国岳付近、韓国岳北東側、硫黄山付近で火山性地震が時々発生している。2014年8月20日に、硫黄山付近を震源とする継続時間約7分の火山性微動が発生した。微動の発生に伴い傾斜計²⁾で硫黄山の北西が隆起するような変動が観測された。

これらのことから、えびの高原（硫黄山）周辺では火山活動が高まっており、噴気や火山ガスなどが噴出し、今後の状況によっては小規模な噴火が発生する可能性があるとして判断し、24日に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表した。

えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意が必要である。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕

昭和火口では、爆発的噴火⁶⁾が19回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。大きな噴石が4合目（昭和火口より800～1,300m）まで達する爆発的噴火⁶⁾は、8回発生した。噴煙の高さの最高は、24日12時05分の爆発的噴火⁶⁾による火口縁上3,200mであった。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾（火山れき⁵⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

さつまいおうじま
薩摩硫黄島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では、火山ガスに注意が必要である。

くちのえらぶじま
口永良部島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

口永良部島では噴火は発生しなかった。

火山性地震が時々発生し、火山ガスも噴火前より多い状況で経過しており、引き続き、火山活動は高まった状態で経過している。

7 日及び 8 日に実施した現地調査で、新岳火口及び西側割れ目付近で噴煙が上がっているのを確認した他、新たに新岳の南西斜面で噴煙が上がっているのを確認した。

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要である。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石³⁾に注意が必要である。降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

すわのせじま
諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

おたけ
御岳火口では、噴火が時々発生するなど、活発な火山活動が継続した。

噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で火口縁上 800m まで上がった。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒が必要で

ある。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ
鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（平常）]
くじゅうざん
九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
うんぜんだけ
雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
きりしまやま おはち
霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- 1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 3) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 4) 阿蘇山特有の微動で、火口直下のごく浅い場所で発生しており、周期 0.5～1.0 秒、継続時間 10 秒程度で、中岳西山腹観測点の南北動の振幅が 5 $\mu\text{m/s}$ 以上のものを孤立型微動としている。
- 5) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 6) 桜島、諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または気象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としている。